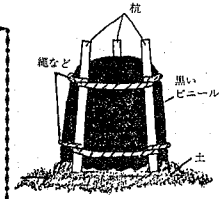
生ごみ処理器

冬期間の取扱いは…

生ごみ処理器は、冬の間も使用できますが、気温が低いため、夏のようには発酵せず、使用できる期間も短くなります(二～三か月)。生ごみ処理器を使用する場合は、雪の重みでつぶれないように、注意をする必要があります。除雪をするときは、生ごみ処理器の上に屋根などの雪を落ときないように、十分気をつけてください。



生ごみの冬囲い

夏に入れた生ごみには黒いビニール袋を

夏の間に入れた生ごみは生ごみ処理器をすっぽりとってから、黒いビニール袋をかぶせて、その端を土で抑えておきます。そして、それが倒れないように、周りに杭などを三本うって、縄などで縛っておけば安全です。この状態で春までおいておきます。

黒いビニール袋をかぶせるのは、中が見えないようにすることと、生ごみに少しでも熱を吸収させるためです。

※生ごみ処理器を使用しない場合は、きれいに洗って、雪の積もらないところにかたづけておいてください。

し尿のくみ取りの申込みはお早目に

毎年、し尿のくみ取りの申込みが年末に集中し、くみ取りができない家庭ができます。とくに昨年は豪雪のため、くみ取り車が家の近くまで入れないという事態も発生しました。

今年は、このようなことがないように、十二月は早めにくみ取りを行い、安心して正月を迎えてください。

なお十二月二十一日(土)、二十二日(日)は、平常どおりし尿を収集します。

年末のし尿の収集

・二十八日(土)…午前のみ
・二十九日(日)…休み
・三十日(月)…平常どおり
・三十一日(火)…休み

※年明けは、六日(月)から平常どおり収集します。

住宅金融公庫で個人向け融資を受付

□受付期間…十二月二十日まで
□融資限度額…五百十万円～七百八十万円
□利率…五・五～六・八五％
□返済期間…木造の場合は二十五年以内

申込み方法などくわしいことは、公庫業務取扱い金融機関へお問い合わせください。

コロンビアでの火山噴火災害の救援金を受付

十一月十三日、南米コロンビアで火山が噴火し、大きな災害を引き起こしました。そこで、日本赤十字社新潟県支部では、現地に救援の手を差し延べるため、次のように救援金の受付を行います。市民の皆さんのご協力をお願いします。

□受付…十二月二十八日まで
□受付窓口…日赤県支部、市社会福祉事務所
□受付品目…現金のみ

戸籍 窓口相談

相談 私の戸籍上の氏名は、「山寄忍」ですが、私は、名前を書くときはいつも「山崎忍」と書いています。「寄」と「忍」は誤字なので、戸籍の字を正しい字に訂正したいと思います。できるでしょうか。

氏名の誤字を直すには？

回答 一般的には、氏名の変更や訂正は、住所地の家庭裁判所の許可を得たうえ、その許可書を添付して、市町村長あてに申請することになっています。

しかし、おたずねの「寄」や「忍」は、本人からの申し出があれば、家庭裁判所の許可を得るまでもなく、市町村長の職権で直すことができます。

くわしく説明すると、戸籍上の氏名が誤字・俗字で記載されている場合、その文字の訂正が、戸籍を司る法務省の先例によって既に認められているときは、申し出によって市町村長だけの職権で、これを訂正することができるとされています。

＊　＊　＊

「寄」は、まさにこの認められている誤字・俗字にあたります。なお「忍」については、これは誤字ではなく、現在、一般に用いられている常用漢字の元の漢字です。しかし、このような旧漢字も申し出があれば、常用漢字に直すことができます。

なお誤字・俗字、常用漢字の旧字体についてのくわしいことは、市民課へお問い合わせください。

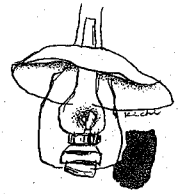
あなたの氏名のうち、

お買物、ご用命は市内で

耳鼻咽喉科　坂爪医院
〈診療時間〉
平日　午前7:30～12:00　午後2:30～6:00
土曜　午前7:30～12:00　午後1:00～3:00
新津駅前通（英進堂トナリ）TEL(24)5588

らくらくクレジット3～20回払い!!
写真のよきパートナー
コダカメラ
新津市本町2丁目　☎22-0583

幕末明治夜話 (116)



(三)『新発田市史』に見る久米兄弟の巡探

久米兄弟等の一行が、父彌五兵衛の敵討の旅に出発したのは、文政十一年五月十六日であった。また、その敵の行方の手懸りが知れたのは安政四年七月九日で、この間に既に廿九年余の年月が流れ去ってしまった。

この間の巡探の生活については、安政五年刊の『久米盛輝復讐略記』には全く触れることなく、巻頭の唯一頁に極めて簡単に、敵滝沢休右衛門のその後の消息について略記し、直ちに本筋に入って、「右敵手続、久米家へ相知候事は、茂庭の金剛寺住持の咄より出たるよし」となって、金剛寺の大雲和尚の話から敵の所在が知れてくることになっている。

ところが、久米幸太郎の没年の明治廿四年に、新発田で発行された『久米操志』を見ると、全巻約56頁の中の第20頁目に漸く右の茂庭の金剛寺が現われ、次のように記されている。

――仙台領茂庭村に一禅寺あり、金剛寺と云ふ。住僧大雲和尚は元新発田の人なり。

弟あり、藤四郎と云ふ。新発田領亀塚浜に住す。一年藤四郎金剛寺に至る。話次、久米の事に及ぶ、和尚告ぐらく今を去る事已に久し。一修験者あり、当寺に客たり、自ら云ふ、羽の庄内の産なりと、曹洞宗の僧たらん事を希願し、遂に仙台向山宗禅寺に落髪し、黙昭と称す。

後、再び来て当寺に住職たり、今現に富田村成就院にあり。当時、我れ尚ほ幼なり、然れども、人の彼を滝沢休右衛門なりと称する事を記せり。

爾来法会ある毎に相会する数次、其挙止、就々として人を避くる者の如し。世また常に之を怪めり。是れ或は其人なる勿らん乎。

果して然らば其余生惜むべきに非ず。而して此が為めに流浪苦悩する幾多の人あらん。

汝郷に帰るの日、之を以て久米氏に告げ、孝子貞婦をして早く其志を為さしめよと。

藤四郎還て之を板倉行蔵に語る。行蔵は重軽の兄なり。――

また、前述の二十九年余の巡探生活における詳細についても述べたいのであるが、今回は煩を避けて後の機会に譲って、之について簡潔に記してある『新発田市史』下巻に見える記事を導入旁々紹介してみよう。

＊　＊　＊

……三人は村上を経て庄内地方に出て東北各地を巡り、敵を探すが手懸りは得られず、江戸へ向う途中、盛次郎が病に罹るなど苦難の道をたどる。そこで江戸にひとまず落ち着き、藩の屋敷を訪ねて知友に会ったり、普化宗総本山鈴法寺に修業入りし、兄は貞応、弟は貞冠、留六郎は周達と称して虚無僧の印可を得た。

この間も、休右衛門を見たという知らせがあると、その地にとんで行くが、人違いであったりして、いつしかその足跡は、京都、大坂及び中国地方にまで及んだという。この間、江戸で幸太郎は医術を学び、漢法医を業とし、かたわら尺八を教え、弟盛次郎は、習字の師匠と街の人達に剣術を教えるなどしながら敵を探した。

幕末巡探三十年目(II)

阿達義雄

十代藩主直諒は、かつて久米兄弟が敵討ちに出発した時の藩侯であった。天保九年七月隠居して健斎と号し、文筆をたしなむなどの生活を送るが、まだ本懐を遂げず、敵探しに諸国を巡っているであろうと哀れみ、嘉永四年『書孝志兄弟録後録』の末尾に、

「抑々事の成敗は則ち天にのみ。何んぞ、故主の辱となさんや、余嘗て其の孝志を称す。今に至るまで心に忘るる事能はざるなり。其の族もし此の意を伝へ知ることをえば、則ち或は其の兄弟の心を慰するに足らんかと。」

（『溝口伊織文書』）

二十年余を経てもまだ敵のありかはわからずにいる久米兄弟に同情した一文である。かくてはならじと久米兄弟ら三人は、別々に分れて宿敵を探すこととなり、事のあった時の通報場所を買ってでた、蔌町近在美女木村の農家宇之八宅と決めた。

その後もなかなか休右衛門を探しだすことはできなかったのであるが、偶然の機会から休右衛門に似た人が仙台領の石巻近郊のお寺に僧侶となって、ひそかに住んでいたことを教えてくれた人があった。

それは、仙台領茂庭村金剛寺の大雲和尚である。和尚は新発田領出身で、たまたま弟の藤四郎が郷里より、この寺を訪れた際、久米兄弟が父の敵を探して二十余年を経た今もまだ巡り合わずにいることが話題となった。

和尚は「成就院の黙昭と称する僧が経歴等を案するに、滝沢休右衛門に帰ったら、この旨話すように」と頼み、藤四郎が帰郷後、藩にこのことを届けたのがきっかけであったという。

＊　＊　＊

右において、元藩主直諒公が、二十年余を経ても、久米兄弟等の不遇を心にかけていたことは、その後の新発田藩の動向と照し合わせて注意すべきことであろう。

例えば、祝田浜の敵討に先立って、新発田藩八島田陣屋詰代官や、その附人などが、藩の密命によって、久米幸太郎の敵討を容易にするために、その事前工作に従っていた形跡が見られるからである。

〔注〕「行蔵は重軽の兄なり」とある、重軽とは「板倉留六郎重軽」のことである。

（新潟大学名誉教授）

お買物、ご用命は市内で

ことしも聖なるイブのファミリーパーティは、にいつオーサカヤのクリスマスケーキ
12月1日より予約を受け付けております……!!
生クリームは20日で締切らせていただきますのでお早めにご予約下さい……!!
NIITU OSAKAYA MERRY CHRISTMAS
おいしいから好き
にいつオーサカヤ
☎22-0112